

## 平成 27 年度 宮崎大学みやだいCOC事業に関する意識調査

### 1. アンケート調査方法

平成 27 年度末から 4 月にかけて全学生、全教職員、全連携自治体（宮崎県、日向市、串間市、西都市、えびの市、五ヶ瀬町）に依頼し、回収した。

対象者数 ※（ ）内は前回のデータ

#### 【学生】

全学生数	4477 (4761)
有効回答数	3160 (2847)
有効回答率	70.6% (59.8%)

#### 【教員】

全教員数	663 (686)
有効回答数	375 (365)
有効回答率	56.6% (53.2%)

#### 【職員】

全職員数	578 (489)
有効回答数	424 (434)
有効回答率	73.4% (88.8%)

#### 【自治体】

全連携自治体	6 (6)
有効回答数	6 (6)
有効回答率	100% (100%)

### 2. アンケート調査目的

宮崎大学みやだいCOC事業に対する意識調査を本学に在籍する学生、教職員、連携自治体を実施し、学生の地域活動を大学が推進・促進するための検討資料、また、宮崎県内の定着率の拡充に向けた支援策の検討資料とすることを目的とする。

### 3. アンケート調査結果※（ ）内は前回の結果

#### 3-1. 学生

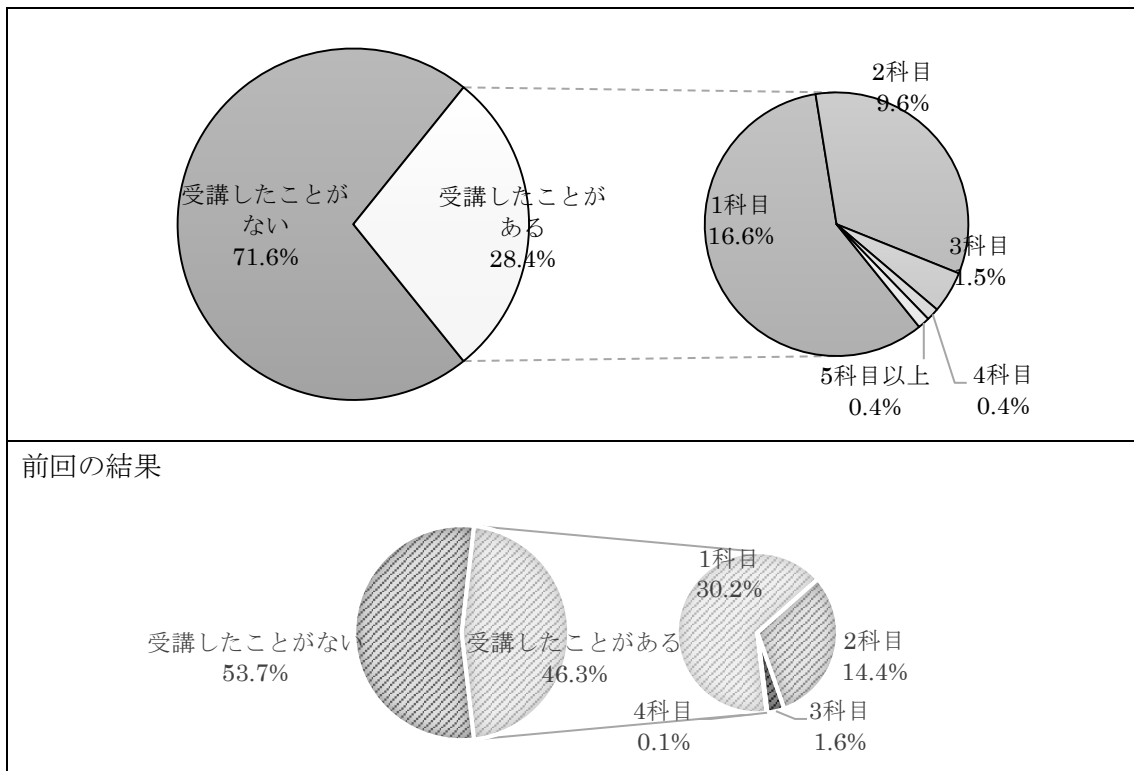
(1)みやだいCOC事業の認知度 ※H27年度以前入学の教育文化学部生は教育学部に含む

	知っている	知らない	分からない
教育学部	35.3% (29.5%)	51.0% (58.1%)	13.6% (12.4%)
医学部	34.3% (27.0%)	54.9% (62.1%)	10.8% (10.9%)
工学部	30.4% (30.9%)	59.5% (56.4%)	10.0% (12.7%)
農学部	59.5% (49.9%)	33.4% (38.8%)	7.1% (11.3%)
地域資源創成学部	38.7%	57.0%	4.3%
総数	38.4% (34.9%)	51.6% (53.1%)	10.1% (12.1%)

(2) みやだいCOC事業への参加意思

	参加したい	参加したくない	分からない
知っている	36.0% (40.6%)	13.1% (11.5%)	50.9% (48.3%)
知らない	21.8% (22.0%)	22.8% (27.3%)	55.8% (50.7%)
分からない	16.4% (13.2%)	8.2% (8.9%)	75.5% (77.9%)
総数	26.7% (27.3%)	17.4% (19.6%)	55.9% (53.1%)

(3) みやだいCOC事業として実施している基礎教育科目を受講したことがあるか



((3) の質問で受講したことがある学生対象)

(4) みやだいCOC事業として実施している基礎教育科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域課題解決に役立つ知識・理解・能力が深まったか

	はい	いいえ	わからない
1科目	65.2% (34.0%)	10.3% (19.2%)	24.5% (46.8%)
複数科目	77.1% (65.7%)	6.7% (13.8%)	16.3% (21.2%)
総数	70.2% (39.8%)	8.8% (16.3%)	21.0% (43.9%)

((3) の質問で受講したことがある学生対象)

(5) 得た知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいか (自由記述方式)

- ・地域に密着できる授業を今後も受講し、ボランティア活動等にも参加したいと思う。
- ・宮崎県出身の私でも初めて聞いた宮崎県の地理や食文化があったが、それを何かに活かせるかが分からない。
- ・県外の人、特に若い人に宮崎について知ってもらえるような仕事、働きをしたいと思う。
- ・市民の人の声が身近に聞けるような職場に就いて、地域に寄り添った仕事をしたい。
- ・宮崎で就職して、自分の知識・経験を生かしたいと思う。

など

(7) みやだいCOC事業への期待・要望等について (自由記述方式)

- ・もう少し具体的に何をやっているのか教えて欲しいです。
- ・宮崎の食は質が良いと思われませんが、PRする力に欠けているのかなと思います。食の研究開発と併せて、国立大学という全国区の力を旨く使って、PRに力を入れることにより新しいビジネス、地域活性化につながると思います。
- ・COCの説明会などがあればいいと思いました。
- ・ある課題を解決するにあたって、長期的な考え方をしないといけない場合に、学生が4年で入れ替わるのでは、解決が難しかったり、学生側も何も成果にならないまま終わってしまうことも予想されるので、上手く対応できるようにしてほしい。
- ・就職予備校化はしないでほしいです。
- ・毎年このアンケートをしています、COC事業がどのような活動をしているかが分からないので、答えづらい質問があります。年間を通してどのような事を行っているかを教えていただくと学生の関心も高まるのではないかと思います。
- ・看護学科は地域と関わる事が出来る機会が小児キャンプやピアカウンセリングくらいしか身近にない。もっと地域(自身の出身校や出身地だとより参加しやすい)と関わる事ができる事業や取組を案内して欲しい。

など

### 3-2. 教員

(1) みやだいCOC事業の認知度 ※教育学部の前回の結果は教育文化学部所属教員

	知っている	知らない	わからない
教育学部(教育文化学部)	100% (75.4%)	0.0% (17.5%)	0.0% (7.0%)
医学部	63.3% (57.1%)	30.7% (38.2%)	6.0% (4.7%)
工学部	97.8% (100%)	2.2% (0.0%)	0.0% (0.0%)
農学部	97.6% (98.7%)	2.4% (1.3%)	0.0% (0.0%)
地域資源創成学部	100%	0.0%	0.0%
附属施設	100% (98.7%)	0.0% (1.3%)	0.0% (4.5%)
総数	82.7% (74.8%)	14.6% (21.6%)	2.7% (3.6%)

(2) みやだいCOC事業として、地域に関する教育・研究に参加しているか

	教育・研究それぞれにおいて参加している	教育のみ参加している	研究のみ参加している	いいえ
教育学部	33.3%(5.3%)	13.9%(15.8%)	2.8%(3.5%)	50.0%(75.4%)
医学部	12.7%(12.9%)	16.3%(9.4%)	8.4%(4.1%)	62.7%(73.5%)
工学部	24.4%(20.5%)	42.2%(48.7%)	2.2%(7.7%)	31.1%(23.1%)
農学部	36.1%(28.6%)	19.3%(9.1%)	10.8%(19.5%)	33.7%(42.9%)
地域資源創成学部	59.1%	13.6%	4.5%	22.7%
附属施設	29.2%(18.2%)	8.3%(13.6%)	8.3%(13.6%)	54.2%(54.5%)
総数	25.0%(16.2%)	19.1%(14.8%)	7.4%(8.2%)	48.4%(60.8%)

(3) みやだいCOC事業として、地域を志向した教育・研究に参加したいと思うか

	教育・研究それぞれに参加したい	教育のみ参加したい	研究のみ参加したい	いいえ
教育学部	66.7%(45.6%)	13.9%(15.8%)	2.8%(1.8%)	16.7%(36.8%)
医学部	48.8%(45.3%)	12.7%(11.2%)	13.9%(14.1%)	24.7%(29.4%)
工学部	62.2%(64.1%)	15.6%(17.9%)	11.1%(7.7%)	11.1%(10.3%)
農学部	54.2%(64.9%)	16.9%(5.2%)	14.5%(20.8%)	14.5%(9.1%)
地域資源創成学部	81.8%	9.1%	0.0%	9.1%
附属施設	62.5%(68.2%)	8.3%(9.1%)	20.8%(18.2%)	8.3%(4.5%)
総数	56.1%(52.9%)	13.6%(11.2%)	12.2%(13.2%)	18.1%(22.7%)

(4) 今までに下記のFD/SDに、1つでも参加したことがあるか

- ・COC概要を説明した教授会@各学部
- ・「基礎教育改革と地域志向教育プログラム

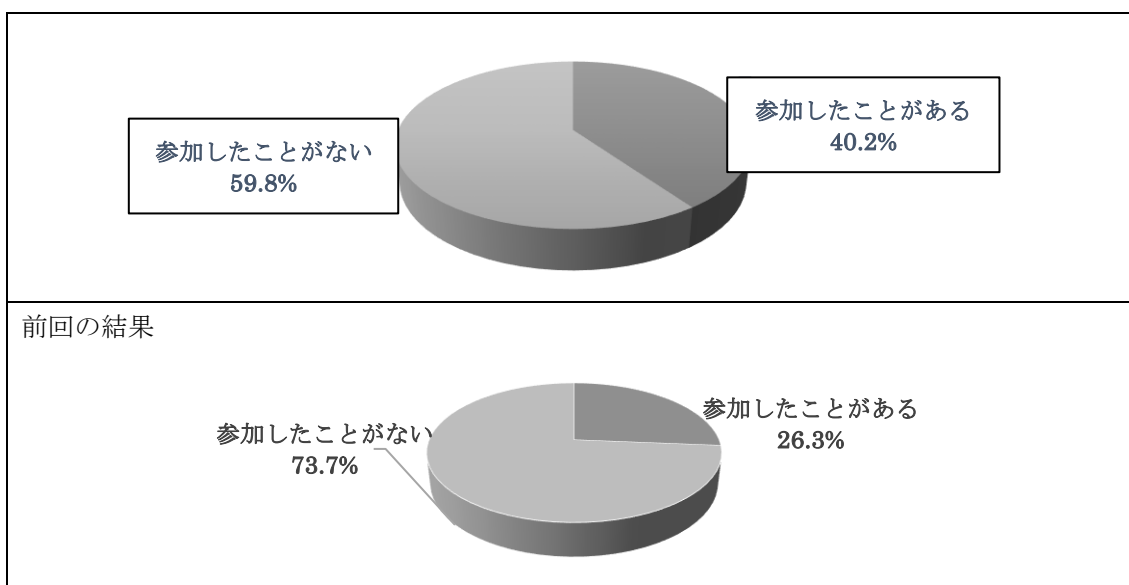
～アクティブラーニングの実践例と地（知）の拠点整備事業（COC）～

@平成27年12月17日(木)

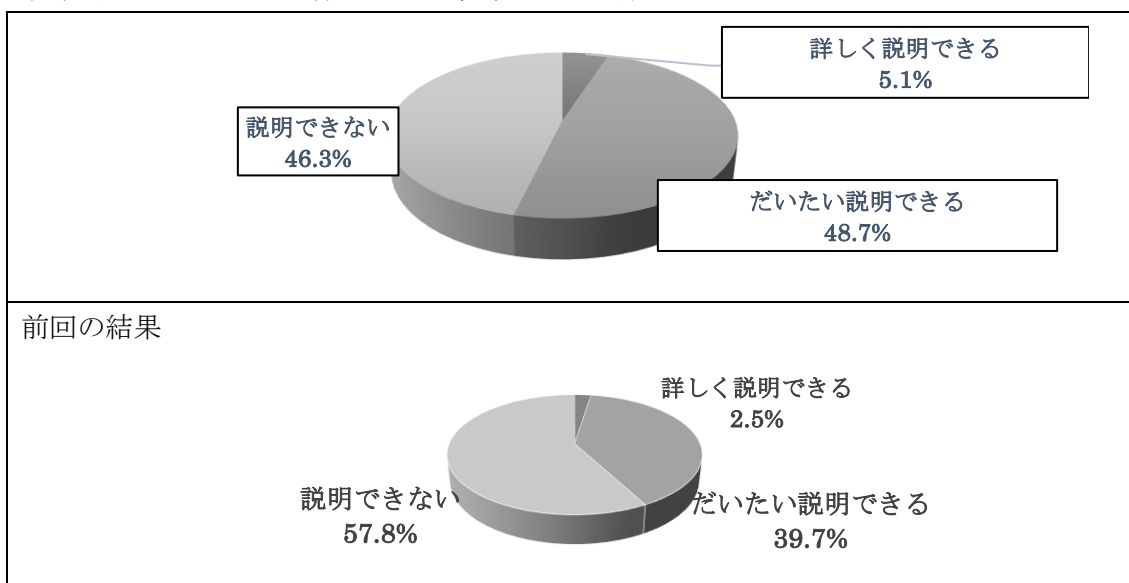
- ・「大学間連携による地域ニーズを捉えたみやざき産業人材の育成 キックオフシンポジウム」

@平成28年3月22日(火) ニューウェルシティ宮崎

- ・その他COCの実施したFD/SD



(5) みやだいCOC事業について、学生に説明することができるか



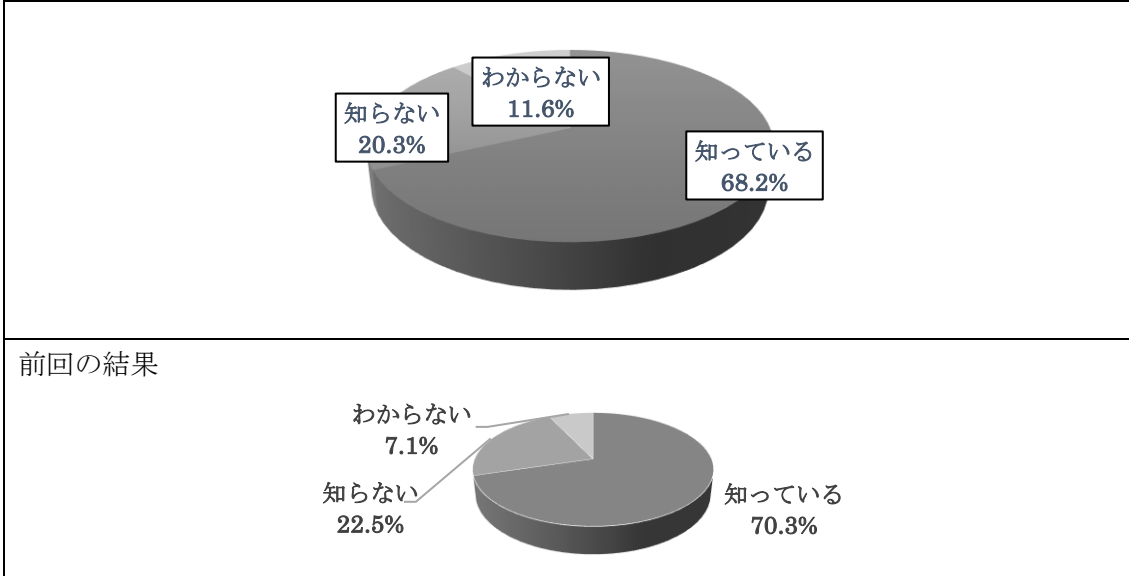
(6) みやだいCOC事業への期待・要望等について (自由記述方式)

- ・地方のレベルアップのため、事業が波及し浸透することを期待したい。
- ・実績について調査されていますが、その実績に基づいてさらに活動を拡大させた方が良いと思われるものについては、サポート含め検討していただきたい。
- ・基礎科目への地域を取り込むことなどが決定されていて、実際に担当する教員がその経緯を知らないのは困ります。また、変更等がある場合には、シラバス作成前に知らせてほしい。
- ・マイスター制度のステータス度をどのように外部にアピールするのか見えません。就活時に学生がアピールできるように出来ないでしょうか(卒業時に交付する形ではなく・・・)。
- ・地域志向型の大学として、周辺自治体の関心も高いと思います。長期的な視点で、地域経済、社会を考える起点となればいいと期待しています。将来的には、補助金や予算をどう処置していくかが、課題であると思います。お役に立てる機会があるのであれば、関係各所の御許可の下で参加してもいいと考えております。

など

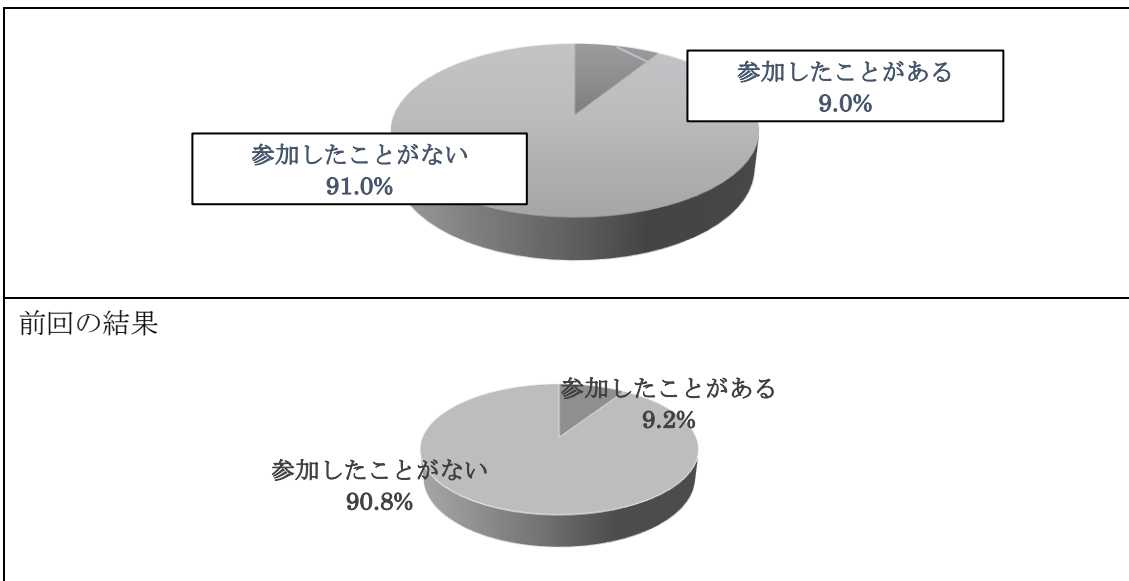
### 3-3. 職員

#### (1) みやだいCOC事業の認知度



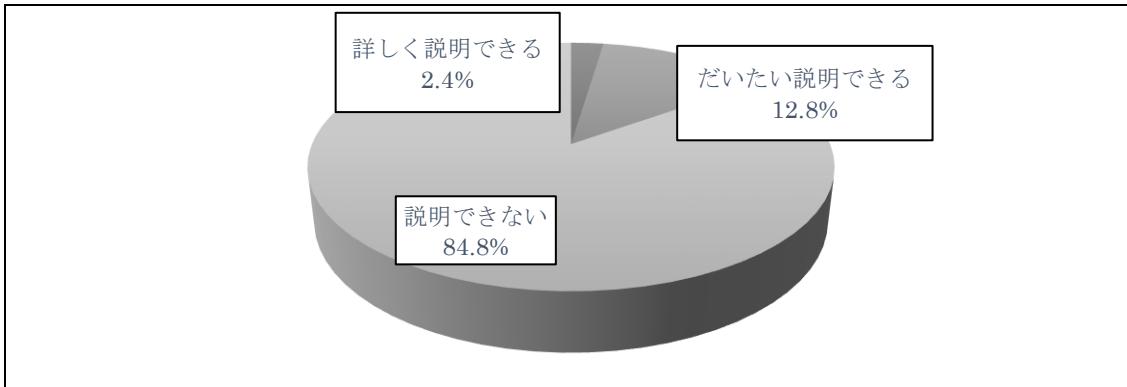
#### (2) 今までに下記のFD/SDに、1つでも参加したことがあるか

- ・COC概要を説明した教授会@各学部
- ・「基礎教育改革と地域志向教育プログラム  
～アクティブラーニングの実践例と地(知)の拠点整備事業(COC)～」  
@平成27年12月17日(木)
- ・「大学間連携による地域ニーズを捉えたみやざき産業人材の育成 キックオフシンポジウム」  
@平成28年3月22日(火) ニューウェルシティ宮崎
- ・その他COCの実施したFD/SD

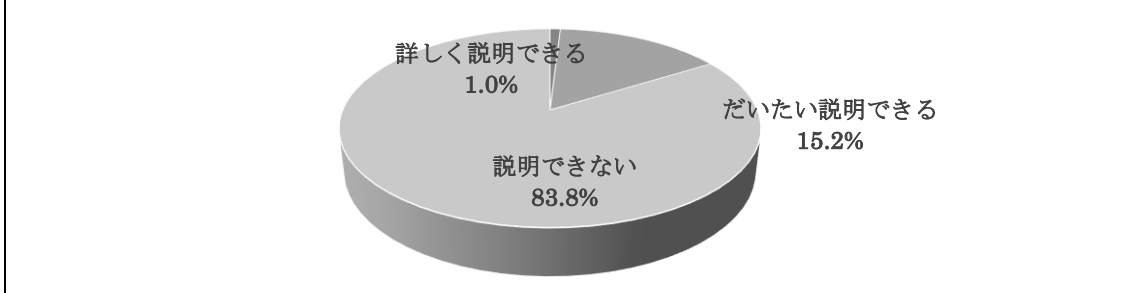


(※学部・教務に携わる部局に所属の方のみ)

(3) みやだいCOC事業について、学生に説明できるか



前回の結果



(4) みやだいCOC事業への期待・要望等について (自由記述方式)

- ・アンケート調査の目的が不明瞭である。経費節減の観点から、ネット環境を使用したアンケートにした方が良いと思う。毎年アンケートを行っている割にはCOC事業についての職員へのPRが十分と言えず、アンケート自体、あまり意味の無いように思える。
- ・規模、学部構成、運営形態も異なる機関を取りまとめた事業展開は大変難しいものかと思いますが、今後はいろんな場面での連携が増えてくると考えられますし、ぜひ良い成果をあげ、将来に繋げていただきたいと思います。この事業を通じて、他機関の情報がもっと入ってきて、相互に理解がすすむといいなあと期待しています。
- ・COC事業に取り組み、既に3年の経過があり、各学部の地域へ対する活動も多々あることを職員として知っていても、市民・県民に対しては極限られた方々のみで、その認知度はまだまだ低いものだと思う。市民・県民の窓口として身近に存在するサテライトが、今後広報の立場として活動の輪の伝達に大きな使命を持っているのではないかと感じた。モニターを通じても研究内容、活動内容、公開講座等を放映したいと思う。県や市の行政を通し、また地方放送局を通して、常に大学の存在を感じられる、宮崎大学の研究内容を県民が大きく理解し応援してくれる、ともに学び合う県民性を育てたいと思う。



- 「食と健康」「中山間地域...」「フードビジネス」の言葉は聞いたことはありますが、私の周り（地区・婦人会等）では話題になったことはありません。テレビ等に出ても遠い...、大学の人と一部の人がしているぐらいの感じです。地域のための大学となるには今までにない働きかけが必要だと思います。宮崎県はいろんな問題を抱えています。みやだいCOC事業としての立派な組織があるようなので、もっと身近に、地域の活性化⇔大学の事業となるよう期待します。目標に対しての達成度は何%ぐらいだったのでしょうか。良い結果、悪い結果も（何でうまくいかなかったのか）発表してほしいです。
- 技術センターでは、COCの助成を受け、串間市の教育講座に関わる取り組みをおこなっております。この取り組みで得た手法を、宮崎の別の中山間地域に活かす機会があればと思います。また、工学部だけでなく、他学部の先生や技術職員とコラボして、子供や高齢者向けの教育講座を地元の人たちを運営だけでなく講師として参加する取り組みが、地域に定着できれば、宮崎大学の大きなアピールになると思います。

など

### 3-4. 自治体

(1) 本学の取組は副申した事業計画通りに進捗しているか (自由記述方式)

はい	<ul style="list-style-type: none"><li>・学生マイスター制度の実施や社会貢献において、実績がある。</li><li>・当市では、「グローバルな視点からの観光振興に関する研究」など、留学生の協力を得た、グローバルな視点からの視察とフィードバックなど計画通りに進捗している。</li><li>・当市との関わりの部分では順調に進んでいると思います。</li><li>・平成27年度までの事業については計画どおり実施されていると思う。本事業も今年度含めて残り2年であるため、今後も引き続き、学生や地域の満足度や事業の室の工場と定着に向けて取り組んでいただきたい。</li></ul>
わからない	<ul style="list-style-type: none"><li>・副申した事業計画をあまり理解していませんでした。</li><li>・事業計画の進捗状況の全てを把握していないので何とも言えない。</li></ul>

(2) 本学の取組について、円滑な連携のもとに実施されているか (自由記述方式)

はい	<ul style="list-style-type: none"><li>・COC事業の開始以降、県及び各市町村等と大学が連携する場面は増えてきている。地方創生が加速していく中で、地域から大学へのニーズもこれまで以上に高まっていくと考えられるため、今後は、連携の拡大と深化に向けたコーディネート機能の強化が必要不可欠になってくるのではないかと。</li><li>・当市とは連携がとれています。</li><li>・上記の連携の他、「生涯学習講座の開設」「食用かんしょの産地強化」など、連携のもと実施されている。</li><li>・本市との連携に限って言えば、定期的なワーキンググループの開催等、円滑な連携が実施されていると思う。</li><li>・大学側は率先して実施していただいているが、行政側が事務におわれ、対応ができていない状況がある。大変申し訳ないと思う。</li></ul>
わからない	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究の实地調査や公開講座といった実績があるが、情報連絡窓口が複数にわたり、五ヶ瀬町役場内でも宮崎大学内でも連携がとれていないように感じるがあった。</li></ul>

(3) 本学の取組は、「地域のための大学」として満足するものか (自由記述方式)

大いに満足	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまで当市内において学生さんのフィールドワークを行っていた だき、地域課題の提案もしていただきました。</li><li>・地域資源創成学部の創設など、地域のための取組を行っている と理解している。</li><li>・本市の地域課題に積極的に関与して頂き満足しているところ である。今後、地方創生を推進していく上で、今まで以上に大学との 連携が不可欠であるので、今後ともご尽力頂きたい。</li><li>・地域の課題に応じた取り組みをしていただいた。「道の駅」「6次 産業化」は本市の喫緊の課題であり、大変満足しています。</li><li>・学生の学びの質の改善は、地域住民の教育力を向上させると思 います。一過性にならず、引き続き取り組んでいただきたいです。た だ事業報告会等は大学だけでなく、県内各地で分散して実施して いただければ県民の関心も高まるかと思えます。</li></ul>
満足	<ul style="list-style-type: none"><li>・問2と関連するが、現状では地域と大学の連携の場面が増 えている段階であり、具体的な成果はこれから現れてくる段階 にあると考えられ、貴学の学生及び卒業生の地域での活躍が 目に見えて把握できる状況でもないため、「地域のための大学」 という点については、現時点では評価が難しい。しかしなが ら、貴学には地域活性化の中核的存在として県内の大学を リードしていただくことを期待しており、今後、県としても 連携を深めていきたいと考えている。</li></ul>